

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編 のまとめ

（※私自身の言葉による補足メモも含まれています）

令和4年12月15日
作成者：うみねこ

これは付箋です

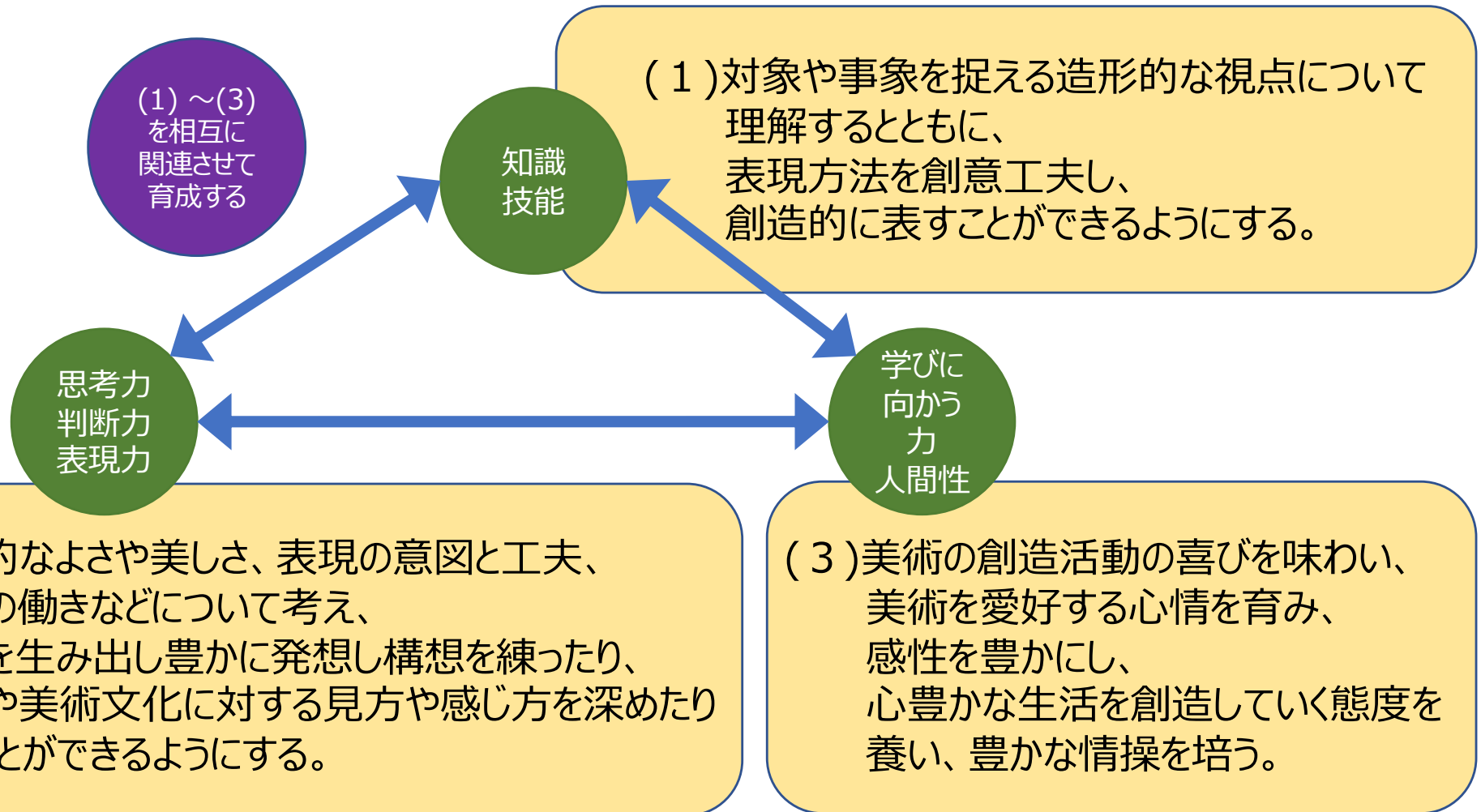
ピンク色は、私自身が
ふと思ったことなどをメモ
して、付箋に見立てて
います。

中学校美術科の目標

- 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、(→p2)
- 造形的な見方・考え方を働かせ、(→p3)
- 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。(→p4)

【育成する資質・能力】

- (1) 知識及び技能 (→p5)
- (2) 思考力、判断力、表現力等 (→p6)
- (3) 学びに向かう力、人間性等 (→p7)



「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」について

表現（創造）活動

- 自分の心情や考えを生き生きとイメージする
- イメージしたものを造形的に具体化する

鑑賞活動

- 表現されたものや自然の造形などを対象とする
- 対象を自分の目や体で直接捉える
- よさや美しさを主体的に感じ取る
- 作者の心情や美術文化などについて考える
- 上記の見方や感じ方を深める

発想や構想

- 感じ取ったことや考えたことを源泉とするもの
- 伝える、使うなどの目的や機能を源泉とするもの

技能

- 画材や道具の扱い方

美術作品（+美術文化）

- 自分の見方や感じ方を大切にする
- 造形的なよさや美しさを主体的に感じ取る
- 作者の心情や表現の意図、工夫を考える
- 人々が大切にしてきた価値観に気づく
- 継承されてきた作品や美術文化、その精神などを理解し尊重する

不可分

求める発想と技能の組み合わせで題材を設定する

主題を生み出す

- 各々が主題を設定する
- 主題に基づいて発想・構想する

価値観、文化、精神性へ踏み込める題材が必要になる

時代の価値観や文化への踏み込みは鑑賞授業で到達しづらい視点のひとつ？

- 生活や社会を美しく豊かにするはたらきを知る
- 実感を伴うことで見方や感じ方を深める

美術のはたらきや美術文化

「造形的な見方・考え方を働かせ」について

造形的な見方・考え方

- 美術科の特性に応じた、物事を捉える視点
- 表現及び鑑賞の活動を通して実践する
- よさや美しさなどの価値、心情を感じ取るための「感性」や「想像力」を働かせる
- 最終的に自分としての意味や価値をつくり出す

不可分

造形的な(造形を捉えるための)視点

- 形、色彩、材料、光などの多彩な要素
- 全体的に見たイメージも含む

造形的要素は
学年を追うごと
に種類や組み
合わせを増やし
ていく？

造形的な要素を多角的に捉える

行き来する

どのようによさや美しさを作り出しているか／作り出すか考える

行き来する

感じ取ったことや考えたことを表すため

目的や機能を実現するため

「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」について

中学校卒業までに身につける具体的な資質・能力

- 造形的な視点を豊かに持っている
- 生活や社会の中の形や色などの造形的な要素に着目できる
- 造形的視点にもとづくコミュニケーションを実践できる
- 美術や美術文化を自分との関わりで捉えることができる

生活や社会と豊かに関わる手段として、美術や美術文化を活用できる人になる

自分の心を自由に表現できる手段／友達に褒められて自己肯定感が上がった、ということまでは実感している生徒はいる

美術も、社会に関わり社会を幸せにする手段のひとつであるという点に気づく生徒はあまりいない気がする

3年間の授業を通じて、このことに生徒が気づくようだといいな

美術を専門的に用いる仕事に就く

アーティスト、デザイナー、クリエイター、学芸員、教員、美術を専門的に用いる仕事はとて多い

余暇を楽しむ (制作、鑑賞など)

サークル、カルチャー、個人で楽しむ等
YouTubeも入る？

自分がモノを選ぶ 基準にする

インテリア、実用品、贈答品を選ぶ等

さまざまな関わり方がある

共通するのは「造形的要素に心を動かされていること」

景観を楽しむ (街、自然など)

思い出づくり、行動圏の選択、SNSで共有等

教科の目標（1）知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について理解する(知識) とともに、表現方法を創意工夫し、
創造的に表す(技能)ことができるようにする。

知識

- 知識 = 造形的な視点を豊かにするために必要なもの。
- 「対象や事象を捉える」 = 美術作品や造形物、自然物、生命感や心情、精神的価値や創造的価値観などを、認識する（知って身につける） ことである。
- 「造形的な視点について理解する」 = ①造形的要素の各々のはたらき ②イメージ ③作品の傾向や特徴などを、実感を伴い理解することである。

- 技能 = 発想や構想を創造的に表すために必要なもの。
- 「表現方法を創意工夫し」 = 表現の意図に応じて技能の応用や工夫を繰り返して自分の表現方法を見つけ出すことである。
- 「創造的に表す」 = さらに美しく面白い表現につながるよう、技能を伸ばすことである。

技能

教科の目標（２）思考力、判断力、表現力等

- （Ⅰ）造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、
- （Ⅱ）主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、
- （Ⅲ）美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

（Ⅰ）発想や構成／鑑賞 の双方から資質・能力を育む

- **造形的なよさや美しさ**：目には見えない本質的なよさや美しさを捉える視点も含む。
- **表現の意図と工夫**：作品に込められた作者の心情を捉える視点も含む。
- **美術のはたらき**：身の回りの物の造形的要素が生活や社会をどのように心豊かにしているかという視点も含む。

（Ⅱ）主体的な学びにつなげ、個性や良さを伸ばす機会

- **主題を生み出す**：「自分は何を表したい／つくりたいのか、どういう思いで表現しようとしているのか」ということを、強く心に思い描くこと。
- **豊かに発想し構想を練る**：生み出した主題を基に、対象や内面を再度深掘りし、わかりやすさ、よさや美しさなども考えながら作品の構想を広げることである。

（Ⅲ）1年生～3年生の発達段階も考慮して題材を設定

- **見方や感じ方を深める**：発達段階に応じた見方や感じ方を大切にするとともに、感じるだけでなく、美術のはたらきや美術文化について熟考する機会になることも重要である。

教科の目標（3） 学びに向かう力、人間性等

美術の創造活動の喜びを味わい／美術を愛好する心情を育み／感性を豊かにし／心豊かな生活を創造していく態度を養い／豊かな情操を培う。

美術との
関わりの中で、
資質・能力
を培い、学び
の意義を
実感

創造活動の喜び

- 主体的、個性的に自己を発揮できたという実感
- 自分の考えが形になったという実感
- 新たな創造への意欲の実感など

考えがきちんと形になったかどうかは、他者からの感想をもらうなどで実感できることもある

愛好する心情

- 美術を楽しむ、好むほか、努力をして生み出す主体性や他者と考えを認め合うなど人間性の向上
- 多くの作品に触れ、鑑賞の楽しみ方を覚える など

感性を豊かにする

- 対象を捉えるときに、視覚や触覚など感覚をフル活用
- 目に見えないものも可視化できることを実感
- 受け継がれてきた価値観がもつ意味を実感 など

心豊かな生活を創造する態度

- 主体的、個性的に自己を発揮できる実感
- 「ただ自由」ではなく、自分の考えが形になる実感
- 新たな創造への意欲がわく実感 など

豊かな情操

- 美しいもの、優れたものに接することで得る感動を求める心の働き
- 造形的な視点を豊かにもち、主体的な創造活動と自己実現を求める心
- 自然や美術作品の美しさ、美術の働きや美術文化への共感・感動を味わう など

学年の目標（表現の活動と鑑賞の活動により関連づけて育成する事項）

- 1年生では目標とする資質・素養の「定着をはかること」を重視
- 2～3年生では、1年生で身につけた資質・素養を「さらに深めること」と「柔軟に活用すること」を重視

1年生

2～3年生

知識
技能

- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解する
- 意図に応じて表現方法を工夫して表す

- 意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す

思考力
判断力
表現力

- 主題を生み出し豊かに発想し構想する
- 自然や美術作品などの造形的なよさや美しさ、美術のはたらきについて考える
- 表現の意図や工夫／機能性と美しさの調和も考える
- 美術や美術文化に対する見方や考え方を広げる

- 表現の意図や創造的な工夫／機能性と洗練された美しさの調和も考える
- 美術や美術文化に対する見方や考え方を深める

「広げる」=異なる価値観や考え方の存在を知ったり受け止めたりすること？

「深める」=ひとつの価値観や考え方について見識や考察を進められること？

学びに
向かう力
人間性

- 創造活動の喜びを味わう／心豊かな生活を創造する態度を養う
- 美術の活動に楽しく取り組む
- 美術を愛好する心情を培う

- 美術の活動に主体的に取り組む
- 美術を愛好する心情を(更に)深める

学びに向かう力
人間性



美術科の内容（領域「A表現」「B鑑賞」および〔共通事項〕）

- 1年生では目標とする資質・素養の「定着をはかること」を重視
- 2～3年生では、1年生で身につけた資質・素養を「さらに深めること」と「柔軟に活用すること」を重視

